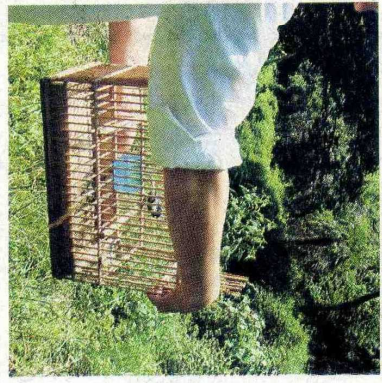


かごの野鳥、再び空へ

この鳥たちは、限りなく広い空に抱いて知っている。野生に戻りたいという思いを隠さないその目光に「おれが」がたまたま風景である。野生鳥獣選抜捕獲防止トロリーの役割とは、そんな環境の鳥を採り、再び自然界に返す役割だ。野鳥を飼うことがいけないことだという認識がまた根付かない世の中でひとつ、種々重なりあがればはるかに地道な活動である。(葉)

「野の鳥は野へ」の重点ハト



放鳥される野鳥



オオルリ



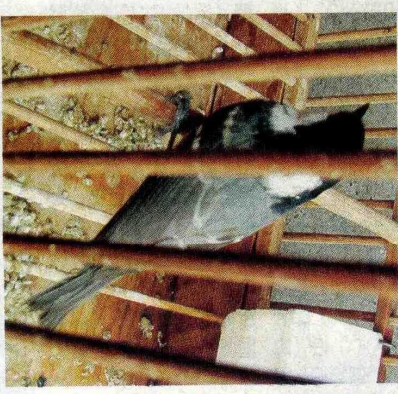
メジロ



ヤマガン



ウグイス



ヒタウ

オオルリなど15羽 桐生環境森林事務所管内

写真は桐生環境森林事務所管内の2008年度重点ハトに抱いて不適正な飼養と認められ、任意提出してもらったオオルリ、メジロ、ヒタウ、ウグイスである。10日、行政担当者や鳥獣保護員、識別を担当する日本野鳥の会群馬支部会員が管内を巡回し、6軒を訪問して5種13羽を確認し、指導した。このうち、メジロやヒタウなど7羽を自由に放鳥され、オオルリ4羽は桐生赤岡動物園に収容され、体力の回復を待たせ、後日放たれる予定だ。大半は、人からの譲り受けたものを飼っていたケツであり、関係者をなかなか丁寧に養育が返ってきて、同会野鳥保護対策委員長の山崎悦子さんは「野鳥飼ってはいけないという認識自体が薄いようですね。野の鳥は野に、というのが私たちの願いです。みなさんにもぜひ理解を深めてもらいたい」と話す。かごの中から、野鳥は何を見つめるのか。自然界に生きる生きものとの距離をもう一度しっかり考えたい事例である。